

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	有限会社 つだ福祉サービス	代表者	津田 泰造	法人・ 事業所 の特徴	田畑に囲まれたのどかな雰囲気施設の施設です。家庭的な環境と地域の方との交流のもとで、日常生活の支援や機能訓練を行います。必要に応じて通所、宿泊、訪問の3つのサービスを臨機応変に選び利用できます。
事業所名	つきの音	管理者	松田 元美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	人	1人	1人	1人	1人	2人	人	8人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	ミーティングは、議事録を作成し全員で周知出来る様にする。利用者の担当を決めて「～したい」と言ってもらえる関係を築く。	一人でなくチームでケアを行っているので、個々が決まったこと、ルールを理解し実行していかねければいけないが、個々の視点で理解しているように思われる	職員全員での情報共有ができていないようであれば、記録に目を通すだけでなく必ず口頭で伝えるような対応が必要では？記録は個人で確認となると確認しそびれることもあると考えられる、重要なことは何度もミーティングで伝えていくことが大切。	・報告・連絡・相談を徹底していく ・新規利用者受け入れ時は、カンファレンスを行い情報の共有を行う。
B. 事業所のしつらえ・環境	行事ごとを事業所の新聞を作成し、回覧板を活用し地域に発信し、興味を持っていただける工夫を行っていく。	ご利用者、ご家族には発行したが、回覧板の活用ができていなかった。	次年度は、回覧板を活用し地域に発信し興味を持っていただけるようにする。	・季節を感じていただける作品の展示を行い、整理整頓に努める。 ・夜間 21 時には玄関を含め施錠を行い防犯強化に努める。
C. 事業所と地域のかかわり	気軽に相談しやすい場所として、2か月に1回、家族会を開催していく。(お茶会のような雰囲気では他者との交流の場)	地区の回覧板を利用してなかったため、次回は回覧板を活用する。第三土曜日にしてはいたが、固定しなくてもいいのでは？検討。	家族会はぜひ継続してほしい。今年度1年間の家族会の状況も運営推進会議で報告する。	・家族会（お茶会）を引き続き2か月に1回開催していき、運営推進会議の場を活用し地域の方への参加も募っていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	つきの音の資源マップ作成を行う。職員がつきの音の資源を知ることによって利用者とのかかわりに反映してくると思う。		まずつきの音周辺からマップを作ったらよい。利用者と一緒に作成していくのもよいのではないかな。	・つきの音の資源マップの作成を行うことで、今までの暮らしを大切に、その人の状態に応じた支援を行っていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	家族会の開催をはじめとして、浜砂地区の方々へも声掛けしていき地域の方との交流を図れるよう取り組んでいく。	外部評価をはじめとし、運営推進会議の場での意見交換や情報の共有が行えたと思う。	防災訓練等も運営推進会議を通して、一緒に取り組んでいくこともよい。回覧板で地区の周知をすると、散歩等で地区の方と合った際に声掛けもらえるよい関係づくりへとなる。	・家族会を誰でも参加できる会にし、運営推進会議からも発信し、活動報告も行き地域との交流を図っていく。

F. 事業所の 防災・災害対策	年2回の防災訓練は継続し、日ご ろからの施設の整理整頓を行う。	隣の田中さんには、毎回事前に連 絡し火災訓練に協力していただ いた。5月の火災訓練では消火器 の指導に入ってもらった。	地区の方々の参加も促していく。 特に夜間は地域の力が必要。	引き続き年2回の火災訓練を行 う。予定を運営推進会議で周知し 一緒に行うことができる。 地域の防災訓練に参加する。
--------------------	------------------------------------	--	----------------------------------	--